

第 22 回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時: 2014 年 2 月 24 日 (月) 13 時 30 分～17 時 20 分
2. 場 所: 日本機械学会 第 1 会議室
3. 出席者: 委員総数 20 名中、出席者 19 名 (代理 3 名)、欠席者 1 名
高橋 (電中研)、木村 (NIMS)、増山 (九工大)、浅山 (JAEA)、木原 (ハストマテリア)、澤田 (NIMS)、榎木 (日鉄住金テクノロジー)、中城 (東芝)、藤森 (日立 GE)、南 (NKK シームレス鋼管)、朝田 (三菱重工)、齋藤 (三菱重工)、安田 (原安進)、伊藤 (IH)、井手 (東電)、村上 (パブ日立)
代理人: 庄司 [山田 (中電)]、野口 [伊勢田 (新日鐵住金)]、小枝 [田中 (日本製鋼所)]
欠席者: 三枝 (電中研)
オブザーバー: 船田 (JNES)、齋藤 (原安進)
事務局: 小沢、海野
4. 配布資料
資料材 22-1 第 21 回材料専門委員会議事録(案)
資料材 22-2-1 材料専門委員会委員名簿
資料材 22-2-2 材料専門委員会委員出欠状況等
資料材 22-2-3 材料専門委員会新材料規格化分科会名簿
資料材 22-2-4 材料専門委員会材料規格統合化分科会名簿
資料材 22-2-5 材料専門委員会 No.12「『発電用設備規格関連の材料事象』案の承認 (再投票)」の投票結果
資料材 22-3 第 67 回発電用設備規格委員会議事録(案)
資料材 22-4-1 発電用設備規格委員会ホームページファイル共有機能の運用について
資料材 22-4-2 委員会共有スペース操作手順書 Rev2
資料材 22-5 資料取扱いコメント対応 20140122(規格対応改訂 0)
資料材 22-6-1 「材料事象の解説」規格委員会投票意見と回答案
資料材 22-6-2 材料事象解説_清書版
資料材 22-6-3 「材料事象の解説」規格委員会投票における主なご意見とその対応のまとめ
資料材 22-7-1 第 1 回新材料規格化分科会議事録案
資料材 22-7-2 第 1 回材料規格統合化分科会議事録案
資料材 22-8 材料専門委員会 課題対応一覧 (Tracking List)

5. 議事内容

(1) 開会

委員総数 20 名中、出席 19 名であった。出席者は委員総数の 2/3 以上 (14 名以上) であり、本委員会は成立することを確認し、高橋委員長が委員会開催を宣言した。

出席者が自己紹介を行った。

(2) 議事次第確認

議事次第 (案) と配布資料を確認し、議事次第 (案) 記載の配布資料に 2 件 (22-6-3、22-8) を追加し

た。

(3) 議事録(案)の確認 【材 22-1】

第 21 回材料専門委員会の議事録(案)の確認を行い、誤記修正 (6. 審議事項 (6)“原子力専門委員会へ検討依頼”を“材料専門委員会へ検討依頼”に修正)を確認して、議事録案は承認された。また、審議事項 (6) の火 STPA24J1 系鋼と火 SCPH91 鋼の許容値等の見直しについて、火力専門委員会から検討依頼されたことが報告された。

(4) 委員委嘱関係 【材 22-2-1、22-2-3、22-2-4】

新材料規格化分科会と材料規格統合化分科会から推薦された以下の三役候補が、当事者を除く出席委員全員 (14 名) の賛成により承認された。

新材料規格化分科会:主査 澤田委員、副主査 屋口委員、幹事 齋藤委員

材料規格統合化分科会:主査 山田委員、副主査 井手委員、幹事 安田委員

新材料規格分科会の新任候補である宇和川氏 (三菱重工) の委員就任が、出席委員全員 (19 名) の賛成により承認された。

資料 22-2-3 及び資料 22-2-4 について、以下の誤記修正を確認した。

誤:◎委員長、○副委員長

正:◎主査、○副主査

(5) 材料専門委員会書面投票 No.12 投票結果の報告 【材 22-2-5】

材料専門委員会書面投票 No.12「『発電用設備規格関連の材料事象』案の承認(再投票)」の投票結果が報告された。投票結果は以下の通り。

- ・賛成 18 票、反対0票、保留0票、未投票2票
- ・投票結果:可決
- ・参考意見:1 件 (山田幹事)

(6) 規格委員会報告 【材 22-3】

第 67 回発電用設備規格委員会議事録(案)の材料専門委員会関連部分が報告された。主な項目は以下の通り。

- ・村上委員選任が規格委員会です承された
- ・『材料事象の解説』の書面投票意見対応状況
- ・火 STPA24J1 系鋼と火 SCPH91 鋼の許容値見直し

(7) 発電用設備規格委員会ホームページのファイル共有機能の運用について【材 22-4-1、22-4-2】

発電用設備規格委員会ホームページのファイル共有機能の運用について事務局から説明があり、意見交換を行った。主な意見は以下の通り。

- ・ファイル共有機能にニックネームをつけた方が良い
- ・議事次第案の資料番号をファイル名にする
- ・資料作成者がアップロードする
- ・配布資料は pdf ファイルでアップロードした方が良い

6. 審議事項

(1) 規格委員会での「資料の取扱い内規案」の書面投票結果に対する対応【材 22-5】

齋藤氏(原安進)より規格委員会での書面投票結果とその対応案についての説明がなされた。意見交換を行った後、規格委員会にて各専門委員会で書面投票を実施することが決定した場合、材料専門委員会の書面投票を実施することの是非について挙手による採決を行った結果、賛成多数により書面投票の実施が可決された。(賛成18、反対0、保留1)

なお、主な意見は以下の通り。

- ・規格の制定プロセスに準拠して、専門委員会での書面投票が可決した後、規格委員会で審議するべきである → この意見に対して、挙手により賛否を確認した(賛成1、反対6、保留12)
- ・委員会資料は公開が原則である
- ・公開したくない資料については回収する、あるいは映像(パワーポイント等)による説明として配布しないのが良い
- ・オブザーバー参加者も倫理規定を順守するのが原則である
- ・議事録等には、規格作成のための資料である旨を記載する等、発電用設備規格委員会としての意思表示をした方が良い
- ・資料の取扱いに際して著作権の問題が起こりうるので、資料作成者が十分に考慮する必要がある

(2)「材料事象の解説」の規格委員会書面投票結果への対応について【材 22-6-1、22-6-2、22-6-3】

「材料事象の解説」の規格委員会書面投票結果への対応内容が説明され、【材 22-6-1】と【材 22-6-3】の回答案について、以下の追加修正を確認した。

【材 22-6-1】

- ・(p.1) 鈴木委員保留意見:タイトルに「に関する解説」を追記する
- ・(p.2) 小山委員保留意見(i):タイトルに「に関する解説」を追記する
- ・(p.4) 小山委員保留意見(v):A-900 を Appendix にすることは取り止め、A-800 までは圧力容器と原子力が主な対象であるため、A-900 としてボイラ関連事象を追加した旨を記載する
- ・(p.7) 吉田委員保留意見(e):“上記(c)”を“上記(d)”に修正する
- ・(p.10) 吉田委員保留意見(o):“低炭素合金と安定化合金”を“低炭素ステンレス鋼と安定化ステンレス鋼”に修正する
- ・(p.11) 吉田委員保留意見(p):CRC(corrosion resistant cladding)の後に、“耐食肉盛”を追記する
- ・(p.13) 吉田委員保留意見(t):“脆性遷移温度”を“延性脆性遷移温度”に修正する
- ・(p.18) 吉田委員参考意見(f):“強度低下は生じない問題にならない。”の“生じない”を削除して、“強度低下は問題にならない。”に修正する
- ・(p.27) 宮口副委員長参考意見(8):“脆性遷移温度”を“延性脆性遷移温度”に修正する
- ・(p.28) 宮口副委員長参考意見(9):“安定した電気導通を得るため、注意深く接地され”を削除する

【材 22-6-3】

- ・No.3:日本語の文献を追加した旨を追記する
- ・No.4:材料専門委員会の再投票で可決済である旨を追記する
- ・No.5:A-900 を Appendix にすることは取り止めるため、対応を修正する
- ・No.6:材料専門委員会の再投票で可決済である旨を追記する
- ・No.7:材料専門委員会の再投票で可決済である旨を追記する

(3) 新材料規格化分科会及び材料規格統合化分科会の活動方針について【材 22-7-1、22-7-2】

新材料規格化分科会と材料規格統合化分科会の議事録案が、それぞれ澤田主査及び井手副主査から報告された。主な意見は以下の通り。

- ・新規材料の材料規格 (材料仕様) も作成するのか？
- ・材料規格統合化分科会が材料規格 (ASME Sec. II Parts A & B 相当) を、新材料規格分科会が許容値等の材料特性 (ASME Sec. II Part D 相当) を担当するのがよいのではないか
- ・JIS の材料規格を取り込むためには、日本規格協会との調整が必要である
- ・発電用設備以外の用途にも適用できる材料規格を作成するのか？
- ・両分科会を含めた材料専門委員会の今後の活動方針について全体像を作成する必要がある

7. 次回開催予定

日 時: 2014 年 5 月 30 日 (金) 13:30-17:00 (予定)

場 所: 日本機械学会第 1 会議室

以 上